

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援） 公表日 令和7年10月27日

○事業所名	岩手県立療育センター 児童発達支援事業所・生活介護事業所「かがやき」		
○保護者評価実施期間	年 月 日 ～ 年 月 日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	「児童発達支援」に登録利用者がいないため、回答なし	(回答者数) 「児童発達支援」に登録利用者がいないため、回答なし
○従業者評価実施期間	令和7年10月2日 ～ 年 月 日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年10月9日		

○ 分析結果

	事業所の強みと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所は、岩手県立療育センター内にあり、同フロアには児童発達支援センター「つくしんぼ」および医療機関として外来診察室や訓練科が設置されている。 医療機関併設のため、酸素と吸引の中央配管を整備している。	医療機関併設の利点を活かし、酸素と吸引の中央配管を整備することで、医療的ケアが必要な利用者に迅速かつ安全なサポートを提供している。 同フロアにある児童発達支援センター「つくしんぼ」と、日常的に交流している。 提供する食事は、管理栄養士から助言を受け、安全に食事ができるように配慮している。	看護師、保育士、生活支援員の各専門職同士で連携し、チームアプローチを強化していく。
2	医療的ケアを必要とする利用者が安心して過ごすことができる生活環境が整っている。 看護師が複数いることで、医療的ケアを必要とする利用者に対して、より手厚いサポートが可能である。	ベッドが必要な利用者にはベッドを提供し、安心して過ごすことができる生活環境を整えている。 喀痰の吸引や経管栄養、酸素吸入、呼吸器の管理など、専門的な医療的ケアを安全に提供できる。	医療的ケアを必要とする利用者が、安心、安全に参加できる活動のプログラムを増やしていく。
3	多職種が業務分担し、業務内容の振り返りの機会をつくり、成果について職員間で検証している。 職員の資質向上を図るため、各種研修を受講する機会が確保されている。	日々の朝礼、終礼、月1回の職員会議で職員の意見を把握する機会を設け、業務改善につなげている。 県内外の研修、職場内研修のほか、岩手県社会福祉事業団主催の研修、県内外の研修に参加し、職員の資質向上が図られている。	高度な技術を必要とする看護研修の参加、医療的ケア技術向上の研修に参加し、専門性の向上を目指す。

	事業所の弱みと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援の対象となる乳幼児期の重症心身障害児に対する適切な支援プログラムの作成が課題である。	登録利用者がいないため、支援プログラムを作成していない。	利用者個人の状況に合わせ、心身や健康の状況、病気の状態等を十分に考慮したうえで、支援プログラムを作成していく。
2	地域の同年代の子どもと交流する機会がないことが課題である。	地域の保育所や認定こども園、幼稚園と交流する機会を設けていなかった。 児童発達支援の対象となる乳幼児期の重症心身障害児は、同フロアに併設している児童発達支援センター「つくしんぼ」と併用できるので、地域の児童との交流は同センターで実施されている。	地域の保育所や認定こども園、幼稚園との交流を深めるため、自立支援協議会に参加する。
3	家族に対する支援プログラムが未整備である。	登録利用者がいないため、家族側のニーズが把握できていない。	通所する保護者のニーズ対応できるよう、各種研修会（ペアレント・プログラム、ペアレント・トレーニングなど）の研修に参加する。